

富士山山行報告

(山 域) 富士山
(コ ー ス) 北口本宮富士浅間神社⇒富士山⇒富士スバルライン五合目
(登山方法) ハイキング
(山 行 日) 平成 28 年 7 月 6 日(水)～7日(木)
(天 候) 7月6日 晴れ 7日 晴れ
(参 加 者) 篠塚 勇 (単独)
(山行タイム) 7月6日～7日

北口本宮富士浅間神社(吉田口スタート地点)発 18:00⇒馬返 20:00⇒五合目(佐藤小屋)22:50⇒七合目(花小屋)1:00⇒八合目(太子館)2:50⇒本八合目(富士山ホテル)4:30⇒富士山頂 6:20 下山開始 6:40⇒富士スバルライン五合目着 10:20

(山行報告)

姉ヶ崎駅 12 時発⇒新宿駅 13 時 30 分着。バスタ新宿 14 時 15 分発(高速バス)⇒富士山駅(富士急)16 時 07 分着。

駅ビル屋上で富士山全景を撮り、近くの食堂で夕食を済ませ、コンビニで弁当・飲料を仕入れ、約 2 Km 先の北口本宮富士浅間神社へ向う。神社に登山安全を祈願し、18 時に神社裏の吉田口入口(標高 860m)から頂上まで約 17Km 標高差 2,850m、いよいよ長年挑戦したかった麓から登山のスタートだ。馬返までは車道(登山道)と遊歩道が並行しているが、中ノ茶屋までは車道を歩く。途中下山する 2 人と会う(以後七合目まで人と会わず)。この茶屋(1,100m)は吉田口入口から五合目佐藤小屋まで間で、唯一営業しており、その他の茶屋・神社・山小屋は 10 軒以上見かけたが全て廃屋だった。通過時は 19 時近かったので閉店後だ。

ここからは「熊注意」の標識を横目に遊歩道(昔の登山道)を歩くことにする。大石茶屋跡で 19 時 30 分暗くなったのでヘッドライトを点灯する。

暫らく行き 20 時に馬返(1,450m)到着だ。ここまで車で行け、大きな駐車場に乗用車が 1 台駐車。バスもシーズンには 1 日 5 本が 富士山駅を往復している。

本格的登りはこれからだ。15 分ほどで 1 合目。二合目には崩壊して立入禁止ロープの御室浅間神社。三合目は昼食をとったところから中食堂。四合目は大黒天。四合五勺は御座石浅間神社。五合目は中宮。と、往時が偲ばれる写真と由緒が書かれた案内板がある。静寂で漆黒の闇のなか、上の合目を目指し、ライトの灯りを頼りにモクモクと歩く。

初めての山小屋佐藤小屋(2,230m)に 22 時 50 分到着だ。小屋番 2 人の談笑を遠くで聞きながら、ベンチにリックを降ろし、河口湖・富士吉田方面の夜景を見ながら暫し休憩だ。(この頃から冷え込んできたので合羽を着る)

50 分程で六合目(2,390m)の富士山安全指導センターに到着。建物の中では警察官が何やら作業中、「こんばんわ」と挨拶する。また、ここは富士スバルライン五合目からとの合流地点だ。

樹木もなくなり、上を見上げると転々と山小屋の明かり、更に上空には満天の星空だ。ここから上は急登の連続だ。

七合目(2,700m)まではガレ場を 1 時間 10 分。ここで始めて登る人と会う。 本八合目までに 5～6

人に抜かれる。もっと夜間登山者が多いと思ったが意外と少ない。

ここから八合目(3,100m)までは1時間40分で、岩場の連続だ。この付近から強風で小石が顔に叩きつけ、低温(10度以下か)、更にヘッドライトの灯りでは岩の高低がよく判らず体のバランスに苦戦だ。思いのほか時間を費やす。ここまでで気づいたことがある。山小屋では休憩・宿泊者や金剛杖の刻印のため、必ず1人以上起きている。半数以上が外国人(主に中東・アジア系)ということだ。

ここから頂上までは、またガレ場だ。1時間40分で本八合目(3,400m)の富士山ホテルに4時20分に到着。既に大勢の宿泊登山者がカメラ片手に御来光を待っている。雲があったので少し遅れて4時30分に山中湖上空方面から神々しい御来光だ。雲海の上とはいかなかったが、この場所と時間に合わせて前日夕方に出発し、御来光を見られたことに大満足だ。

御来光を撮り家族の健康他を祈願し、いよいよ最後のガンバリどころだ。見上げると次々と下山してくる人の行列が見える。

1時間で1ツ目の鳥居がある九合目(3,580m)。更に50分で2ツ目の頂上直下の鳥居を潜り、6時40分にようやく吉田口山頂(3,715m)に到着だ。

山頂は、山頂小屋泊や御来光見物の登山者は殆んど下山して人影も疎らだ。計画では、暫らく休んでからお鉢巡りをする予定だったが、強風と寒さで体が冷えてきてそれどころではない。

小屋前ベンチで遠方の景観を15分ほど堪能・休憩し、砂走りから下山しようとして入口に行くと、ロープが張られ警備員がいる。聞いてみると開通は10日からとのこと。帰ってから調べると、テレビ等で報道される7月1日山開きは山梨側(吉田口)のみ。静岡側(富士宮口・須走口・御殿場口)は10日が山開きだ。従って、須走ルート(砂走り)は勿論、富士山本宮浅間大社奥宮である久須志神社も扉を閉ざしていた。更に同神社の境内であるお鉢巡りも原則10日が山開きとのこと。

神社裏の高台まで行き(規制がないので、強風の中お鉢巡りをしている1人を見かける)、反対側の測候所(剣ガ峰)を撮影し、噴火口を見ようと近づこうとしたが、強風にあおられ危ないので断念し、6時40分に今来た登山道から下山を始めた。

本八合目を過ぎた所で分岐し、下山専用の登山道となり六合目で合流する。下山は山頂から下山専用登山道末端まで急なガレ場が続き、足をフンバリながら下降したので、結構足の負担を覚えた。

途中足を引きづっている人を4~5人見かけた。

計画では北口本宮富士浅間神社まで徒歩又は馬返からバスで下山を考えていたが、富士スバルライン五合目(2,300m)ゴールも案の一つと考えていた。体力・足の疲労度を考慮し、五合目をゴールとし10時20分に到着した。約16時間という長い道のりだったが、天候にも恵まれ、まだまだ歩ける証明にもなり、充実した山旅だった。

途中に出合った登山者では、欧米人の多さが目についた。日本人4割・欧米人4割・アジア人2割か。五合目は、既にジリジリする猛暑で、売店は観光客でごった返している。ここでは中国系の人が目につく。大型バスも40~50台駐車している。

バスで河口湖駅まで行き、帰りバスを予約し、観光案内所で聞いた駅前のビジネスホテルの風呂で汗を流し、同駅13時10分発の高速バスで新宿へ、電車に乗換え姉ヶ崎に16時30分帰葉した。

今回の計画は、20年程前、生前に父から、二十歳前に(戦争前か)「麓から富士山に登ったことがある」(ルート不明)と聞いたことがあり、いつかは挑戦しようと考えていた。結果は下山が五合目までで父に

及ばなかったが、年齢を考えたらこんなものか。

以上



富士山駅ビル屋上から(これからテッペンを目指すぞ)



口本宮富士浅間神社の社殿



御来光(写真右下は山中湖)

※この後、夜間のため写真なし



久須志神社の石柱(右)



頂上から河口湖・富士吉田方面



頂上から山中湖・丹沢方面



測候所(剣ガ峰)



六合目から上方を仰ぐ